



びより ふくし日和

～社会的孤立対策モデル事業～

地域の「福祉力」向上を目指して…

社会福祉法人
八重瀬町社会福祉協議会

八重瀬町字東風平1318-1

電話：998-4000

ファクス：998-8999

社協HP

<http://yaeseshakyo.com/>



八重瀬町社会福祉協議会は平成30年度から3年間、沖縄県社会福祉協議会より「社会的孤立対策モデル事業」を受託して2年目を迎えました。モデル事業は、区長・自治会長、民生委員・児童委員、地域住民、ボランティア、社会福祉施設、NPO団体、市町村行政等の関係機関との連携のもと、地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会を目指し、社会的孤立・社会的排除の解消と防止を図ることを目的とします。

「社会的孤立」とは…

周りに助けを求める相手がいない。

またはその人の周りにその人を気に掛ける人が誰もいない状態。

※THANKS(サンクス)運動パンフレットより



モデル指定を受けた本会が取り組む事業は、以下の通りです。

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| (1) コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置 | (2) 地域における孤立解消に向けた取り組み |
| (3) 地域支え合いづくり支援協議会の設置 | (4) 社会福祉施設との協働 |
| (5) 広報活動の実施 | (6) 地域の特性にあわせた事業 |

※CSWとは、地域における見守り・発見・サービスへのつなぎの役割を担う福祉専門職です。

私たちがCSWです!!



- 左から
- 具志頭小学校区担当……………仲村
 - 新城小学校区(モデル事業)担当……………赤嶺
 - 具志頭小学校サブ担当……………浦添
 - 新城小学校区(モデル事業)担当……………新垣
 - 東風平小学校区担当……………島
 - 白川小学校区担当……………古波津

令和元年度

4小学校区合同支え合い委員会連絡会と実践報告会の開催

令和元年7月9日（火）に町中央公民館で令和元年度「4小学校区合同支え合い委員会連絡会並びに社会的孤立対策モデル事業実践報告会」を開催しました。本事業は住民一人一人が地域の中で生き生きと安心して暮らしていくために地域住民自ら身近な生活課題に取り組み、お互いに支え合う地域共生社会の実現を目指し実施しています。

本連絡会ではコミュニティソーシャルワーカーの紹介や各地域の現況、事業説明等の紹介を行った後、八重瀬町社協社会的孤立対策モデル事業の第1期モデル地区より友寄第一団地・安里・富盛・世名城（防災モデル地区）の4地区が実践報告を行いました。それぞれ地域の特色が出ており、友寄第一団地自治会では「支え合い委員会の取り組みとして相談窓口の持ち方や地域の見守りについて」、安里地区では「認知症になっても住み慣れた地域でいつまでも暮らせる地域づくりについて」、富盛地区では「夏休みの子ども達の居場所作りについて」、世名城地区は「体験型防災避難訓練などの孤立解消に向けた地域の取り組み状況」を報告しました。



友寄第一団地自治会 石原清氏



安里地区 兼城和夫氏



富盛地区 野原規子氏



世名城地区 渡嘉敷真治氏

当日は各字・自治会の支え合い委員など105名の参加がありました。第1期モデル地区の報告を参考に第2期のモデル地区募集を行ったところ、6ヶ所の地域が今年度新たにモデル地区の指定を受けました。モデル地区になった地域では、各種研修会への参加や公民館・集会所にて地域相談窓口の開設、地域の特性に応じた事業の展開を実施していきます。



支え合い委員委職状交付(代表 具志頭区長 久保氏)



実践報告者4名

モデル地区認証式・研修会を開催

令和元年9月25日(水)に「令和元年度支え合い委員会モデル認証式並びに地域窓口相談員研修会」を開催しました。

八重瀬町社協社会的孤立対策モデル事業は今年度で2年目になりモデル地区も第1期、第2期を合わせて14字・自治会がモデル地区の指定を受けました。

第1期モデル地区→富盛・屋宜原団地・友寄第一団地・県営外間団地・具志頭・安里・新城・後原
第2期モデル地区→世名城・宜次・外間・大倉ハイツ・坂名城・県営長毛団地

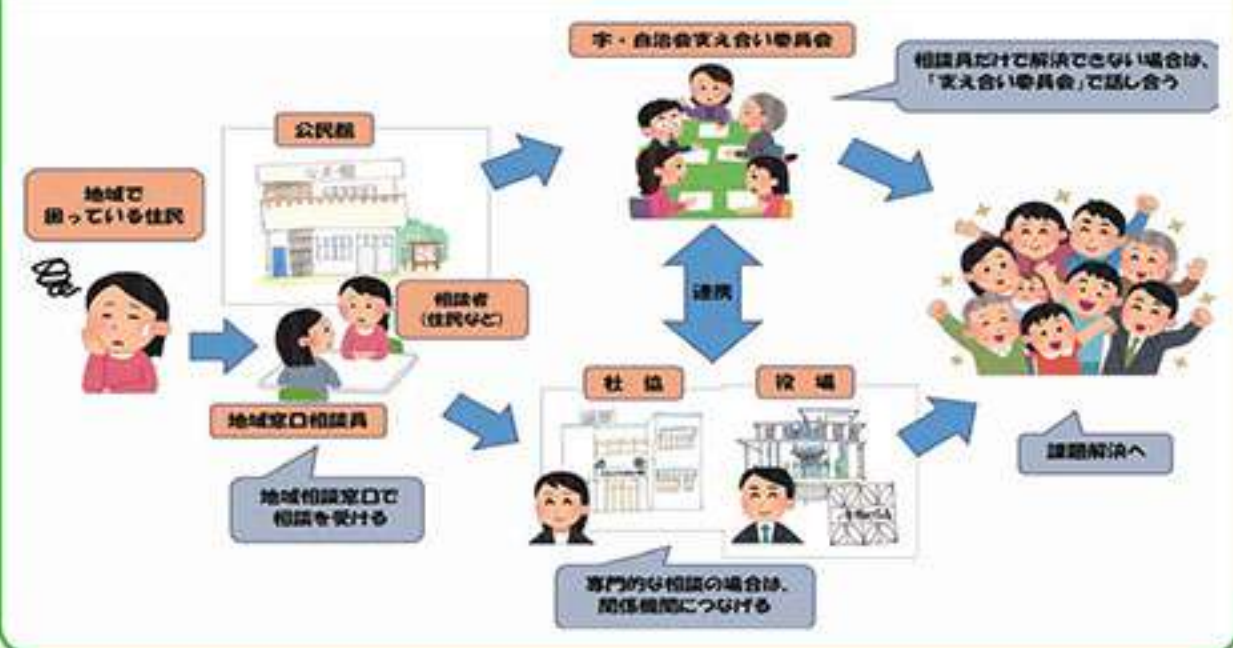
本研修会はモデル地区支え合い委員・地域窓口相談員、社協職員を対象に実施し、琉球リハビリテーション学院教諭の竹藤登氏を講師に招き「相談におけるコミュニケーション技術」をテーマとした講演を行いました。相談において相談者の思い(価値観)を知ることによって信頼関係の構築につながることや面談の中から相手のいい所を見つけるロールプレイを交えた実践をすることで相談に対する心構えをご教示いただきました。

地域窓口相談員は地域の困りごとは地域で解決していこうという趣旨のもと、各モデル地区で2名の地域窓口相談員を配置し月1～2回程度、公民館や集会所で相談窓口を開設いたします。子どもからお年寄りまで地域の困り事なら地域窓口相談員までご相談ください。必要に応じ専門機関との連携も行います。



モデル事業を通して、地域福祉課題の解決に向けて、本会と地域住民が協働して対応できる仕組みづくりの構築を目指してまいります。

八重瀬町社会福祉協議会 社会的孤立対策モデル事業 取り組みイメージ図



開催中
ゆいまーる 地域窓口相談会

第2期モデル地区 令和元年10月より地域相談窓口を開始

第2期モデル地区の4字・自治会において、公民館や集会所を活用した「地域相談窓口」が設置されました。相談窓口では、各地区から推薦された住民の方が「地域窓口相談員」として配置されました。地域の困り事は地域で解決していこうという趣旨のもと、月1回、多い地区で月4回程度、窓口を開設しています。子どもから高齢者まで年齢は問わず相談受付し、必要に応じ関係機関との連携も行います。

※第1期モデル地区は4月以降も継続。第2期モデル地区の泉宮長毛団地は12月からの実施となっています。



大倉ハイツの地域相談窓口の様子



チラシ

本会では、地域相談窓口を開設しているモデル地区を地域住民に周知する為、チラシを作成しました。また、公民館や集会所前に設置できるのぼり旗を作成しました。モデル地区にお住まいの方は、チラシやのぼり旗をご確認下さい。



この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。

県営外間団地自治会 夏休み企画

～書道教室・エコクラフト教室～



県営外間団地では、令和元年7月25日(木)と8月1日(木)に夏休み企画として小中学生を対象に集会所にて「書道教室」と「エコクラフトづくり」を開催しました。

今回の企画は初めての取り組みで、支え合い委員より集会所を活用し子ども達の居場所作りや地域のつながりを強くしたいとの声で始まりました。書道教室、エコクラフト作り終了後は子ども達自ら作ったおにぎりやみそ汁、カレーライスを昼食としてみんなで頂きました。また、民生委員と子ども達で団地に住む一人暮らしの高齢男性宅を訪問し、見守りや顔の見える関係を築くことを目的に昼食を配食しました。子ども達の訪問や自治会の取り組みに感謝し、涙ぐむ男性もいました。



参加児童の声

- ☆みんなでおいしいご飯を食べて楽しかった。習字は夏休みの宿題として学校に持っていきたい。
- ☆エコクラフトは初めてやった。カレーライスはおかわりをするくらいおいしかった。

世名城地区 黒糖づくり&餅つき大会

令和2年1月5日(日)に世名城地区にて「餅つき大会・黒糖づくり」が地域住民を対象に行われました。このイベントは八重瀬町社協社会的孤立対策モデル事業の一環として行われ、世代間交流を通して地域住民同士のコミュニケーションを深めることを目的として実施しました。

当日は地域住民約140人が参加し、世名城地域住民の方々から頂いた400kgのサトウキビを使用しサトウキビ搾りを体験し、子ども達は「目が回る!!」と言いながら夢中になっていました。

また、高齢者などは搾り汁を煮詰める途中で出来るねっとりとした黒糖(むちゃー)を食べ、懐かしさを感じていた方もいました。

最後は出来立ての黒糖と、つきたてのお餅を参加者で食べ、きな粉や餡・大根おろし醤油を絡めたつきたてのお餅を「どれがおいしい?」など会話を楽しみながら食べました。



参加者の声

- ・初めての試みであったが地域の方と盛り上がり楽しめたので良かった。
- ・子ども達と砂糖づくりが楽しめた。

新城地区「防災避難訓練」災害にも強い地域づくりを

新城地区では、令和2年1月18日（土）に新城自治会、あらしろ保育園の共催で「防災避難訓練」を行いました。訓練には地域住民や保育園園児・保護者など約260名が参加。地震により発生した津波を想定し公民館から高台にあるシーサー公園まで約15分かけて避難を行いました。



参加者の声

- ・たくさんの団体に協力してもらい勉強になった。子供と一緒にいない時に災害が起こることもあるので日頃から意識しておきたいと感じた。
- ・隣近所の人たちと助け合いができるように日頃からコミュニケーションをとるように心がけたいです。
- ・目が不自由な人の案内をする人をやって物の表現が難しかった。少しの段差でもつまづいたりするので怖かった。



避難後は公民館に戻り島尻消防、糸満警察、赤十字奉仕団の協力を得て防災講話や炊き出しなどを実施することで地域住民の防災意識の啓発や災害時要援護者の見守り支援体制を推進し、災害にも強い地域づくりの大切さを学びました。

宜次地区 防災の知識学ぶ

令和2年2月9日（日）、宜次公民館にて「宜次自治会防災体験会」を開催し、約50名の地域住民が参加しました。本体験会では島尻消防・赤十字奉仕団の協力のもと心肺蘇生法や水消火器訓練、炊き出しの方法などの講話を実施。また、社協のミニ講話では宜次自治会の人口や要援護者数などの現況報告や防災グッズの紹介を行いました。当日は、様々な種類の非常食の試食会も行い、避難所での生活を想定した体験会となりました。

参加者の声

☆各家庭で非常食を備蓄することが大事であり、可能であれば栄養面を考えた種類を備蓄しようと思いました。全種類おいしかったです。



参加者の声

☆地域において定期的に防災フェアなど開いて地域の防災意識を高めることがいざという時に困らず、役に立てるかと思う。



防災講習会を通して、自助・共助・公助や日頃の備えの大切さを学び、参加者一人一人の防災意識の啓発につながることができました。

地域見守り隊と連携

令和元年12月20日(金)に「八重瀬町地域見守り隊に関する協定書締結式」を開催し、新たに6事業所と協定書の締結を行いました。

同締結式は地域で見守りが必要な方の見守りを地域住民、民間事業所、福祉専門機関等八重瀬町の様々な団体が相互連携を行いネットワークを構築し展開することにより、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを推進することを目的に実施しました。

新たに見守り隊に関する協定書を締結した事業所

- ① 特定非営利活動法人サザンウインド ② 社会福祉法人憲寿会特別養護老人ホームときわ苑
 ③ 社会福祉法人転生会特別養護老人ホーム転生園 ④ 南部水道企業団
 ⑤ 社会福祉法人志紋福祉会障害者支援施設みなみの里 ⑥ 生活協同組合コープおきなわ (順不同)

南部水道企業団企業長仲榮眞弘氏は「毎月の検針作業や未納者への電話連絡のやり取りなどから異変を感じた際には速やかに報告し協力したい。些細なことでもちょっとした気づきが大事だと感じている」とコメントがありました。

締結式終了後、「地域見守り隊事業所連絡会」を開催し、平成28年度に締結を行った沖縄タイムス販売店、琉球新報販売店、沖縄ヤクルトの3事業所にも参加頂きました。同連絡会では社協が実施する八重瀬町社協社会的孤立対策モデル事業の説明や町地域包括支援センターが実施している認知症施策の取り組みや認知症高齢者等検索ネットワークについての説明を行いました。

参加者の声

- ・地域の困り事への協力を企業として関わっていきたいと思います。
- ・地域おこしも含めて多くの見守り隊がいたらいいと思いました。



地域包括支援センターの事業に協力しました(琉名城・白川ハイツ)

令和2年2月4日(火)に社会福祉会館にて「地域のいいところ報告会」を開催しました。この報告会は、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために近所付き合いや気軽に助け合う存在が大事になる中、町内でも様々な支え合いが住民主体で行われている活動を周知することを目的に開催されました。今回は10月に実施された「八重瀬町地域づくりワークショップ」で各地域の日ごろから行っている支え合いの発表があった中から東風平地区から白川ハイツ自治会、具志頭地区からは琉名城区が選ばれ、12月に各地区で「地域づくりゆんたく会」を開催しました。ゆんたく会から出てきた地域での支え合い活動を地域包括支援センター職員が活動の様子を取材し、地域の皆さんが日ごろ行っている支え合い活動の報告を行いました。



埼玉県狭山市に行ってきました!!

令和2年1月25日(土)に行われた「第13回全国校区・小地域福祉活動サミット in さやま」にモデル地区支え合い委員と本会職員の計15名が参加しました。

オープニングセッションでは「住民がつくる狭山の福祉」と題し、住民主体の活動をされている個人や団体が参加し、活動者の学びと交流促進をしている地域福祉活動推進研究会や、役所にある窓口として様々な相談を受けるトータルサポート推進室など、これまでの取り組みを紹介。オープニングセッションの後には、テーマに沿った具体的な取り組みとして、「多世代が集まる！喜びと生きがいあふれるお互い様の居場所」や「小地域における生活支援体制整備事業の取り組み」「地域で生きる～もう一度笑顔になりたい～(権利擁護関係)」など8分科会に分かれ、それぞれ実際に活動されている住民やボランティア、団体などの声や活動内容等を学ぶことができました。



参加者(支え合い委員)の声

- ・地域課題について市民の力で解決していく点で人材の発掘、育成の大切さを学びました。
- ・我々自治会においても八幡地区等のように、住民主体の事業を参加者全体で話し合いを持って活動方法等、検討する必要があると思いました。
- ・分科会での感想から地域全体を網羅した事業にするからには、各字住民に社協主催で「地域支え合い事業」の説明会を希望します。

社会的孤立対策モデル事業の事業説明会を開催

令和2年3月3日(火)、町民生委員児童委員連合会の研修会にて「社会的孤立対策モデル事業」の事業説明を行いました。



本研修会は、誰もが安心して暮らしていける地域共生社会に向けた体制づくりの継続・発展を目的とし、日ごろから地域で活動されている民生委員・児童委員を対象に実施しました。

モデル事業担当より今年度1年間の取り組みや今後の事業方針の説明を行いました。また後半には、沖縄大学福祉文化学科教授の上地武昭氏より「超スマート社会と地域福祉～第2の人生設計～」と題し講演していただきました。人生100年時代が来ると言われている中、民生委員・児童委員として楽しみながら地域貢献をすることで自身の健康維持になることや、皆さんが楽しく民生委員を務めることで担い手不足の解消にも繋がると話がありました。



令和2年度もモデル地区が
活動を継続できるよう推進します

